

# 日高町における地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 1年目）

## 日高町地域公共交通総合連携計画の目標

日高町においては、以下に示す基本方針のもと、利用者満足度の向上、運行経費の削減、日高地域-門別地域間の交流促進を目標に事業計画を立案

- ・高齢者や子どもが安心して利用できる交通手段の確保
- ・地域の特性に適した効率的で持続可能な交通体系の構築
- ・地域間の連携を強化し、町の活性化に寄与する交通体系の確立

## 22年度総合事業計画の概要

### 門別地域

○予約運行方式の導入[既存路線バスの代替]

項目	夏期	冬期
運行期間	H22.8 (1ヶ月)	H22.11 ~ H23.1 (3ヶ月)
運行ルート	既存路線バス運行ルート	夏期運行ルートに要望のあった地域を追加
運行本数	平日土曜 4便/日 既存路線バスの運行ダイヤ	平日土曜 5便/日 利用者ニーズの高い時間帯に便を追加
運賃	無料	200円均一 高齢者バス乗車証等の提示で無料

○停留所・待合所の整備・管理

### 日高地域

○予約運行方式の導入

【実証運行 夏期 8月～10月、冬期 11月～1月】

○既存バスの路線・ダイヤの改正

○市街地循環バスの路線・ダイヤの改正

○停留所・待合所の整備・管理



門別地域 夏期実証運行の様子

## 日高町地域公共交通活性化協議会開催状況

### 6月22日 第6回協議会を開催

#### 報告事項】

- ・事業計画の認定について
- ・事業費補助金交付申請について 等

#### 議事】

- ・平成22年度予算について
- ・利用実態調査計画案について
- ・実証運行計画について
- ・今後の検討スケジュールについて 等

### 9月24日 第7回協議会を開催

#### 報告事項】

- ・利用実態調査の結果
- ・実証運行【夏期】の結果
- ・町営バスのダイヤ改正について 等

#### 議事】

- ・平成22年度実施事業の変更
- ・実証運行【冬期】の実施について
- ・停留所・待合所の整備について
- ・今後の検討スケジュールについて 等

### 2月10日 第8回協議会を開催

#### 報告事項】

- ・実証運行【冬期】の結果 等

#### 議事】

- ・停留所・待合所の整備について 等

### 3月中旬 第9回協議会を開催予定

#### 議事】

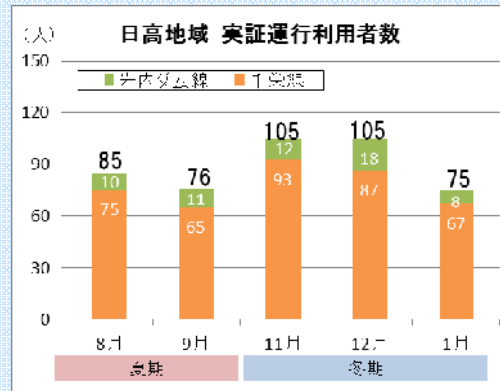
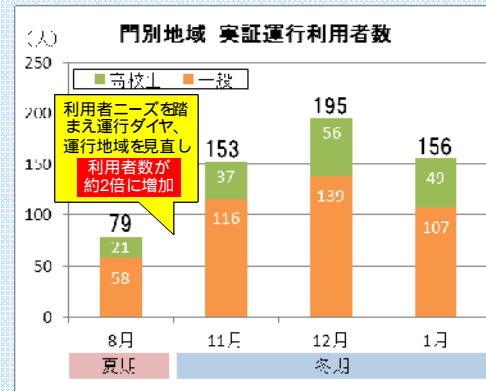
- ・次年度活動計画について 等

## 22年度事業の実施状況

### 1) プロセス、創意工夫

- 実証運行実施前に既存路線バスの利用実態調査（バス乗り込み調査（1週間））を実施し、事前の利用実態、利用者ニーズを把握した。
- 実証運行の実施前、実施後に住民意見交換会を開催し、住民への周知徹底やニーズ把握等を行った。
- 夏期実証運行の利用者にアンケート調査並びにヒアリング調査を実施し、利用者ニーズ、利用の感想等を把握した。
- 夏期実証運行時のヒアリング調査結果等を踏まえ、冬期の実証運行時に利用者ニーズの高い時間帯の便を追加した。
- 今まで路線バスが運行していなかった地域のうち要望が挙がった地域について、予約運行方式の対象地域として追加した。
- 利用者の少ない便については、ルートを統合し、効率化を図った。
- 予約運行方式への移行にあたり、利用者の予約の手間を少なくするため、病院等の主要施設での予約受付、運転手口頭での予約受付を開始した。
- また、高齢者において電話での予約が難しい方への対応として、民生委員等によるサポート体制の構築等を行った。

### 3) 利用実績



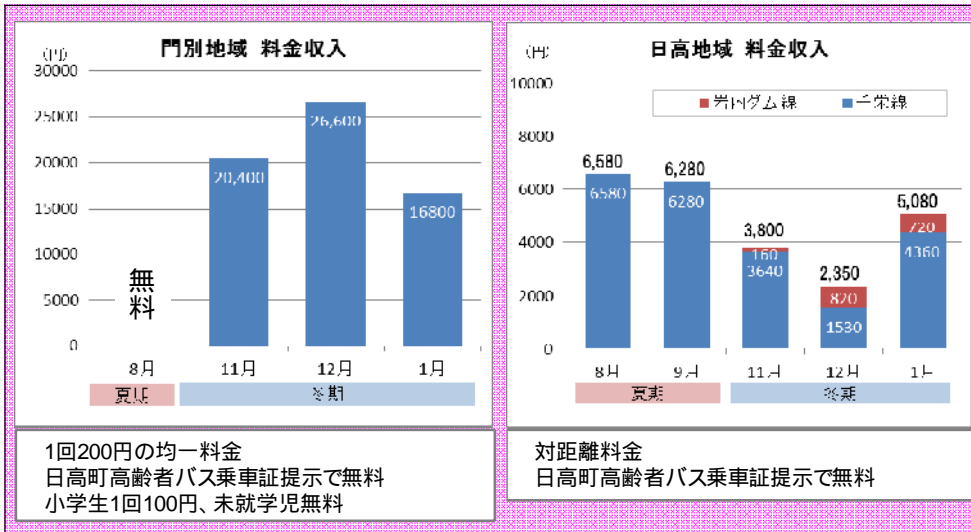
## 2) 運行ルート



### 【日高地域】



## 4)収入実績



## 6)今後の課題

- ・継続的なニーズ把握による、利用者利便性のさらなる向上
- ・沿線地域への継続的な広報・周知
- ・運行範囲拡大による、路線バス空白地域への対応
- ・門別地域と日高地域の料金体系の統一

### 自己評価のポイント

- ・門別地域のデマンドバス実証運行については、夏期実証運行後にを行ったヒアリング調査の結果を冬期実証運行に反映させたことにより、利用者数を2倍に増やすことができた。
- ・日高地区のデマンドバス実証運行については、予約サポート体制整備する等の利用環境を整えた。
- ・両地区とも運行経費の削減が確認され、持続可能な交通体系が構築された。

### 二次評価のポイント

- ・自己評価のとおり、来年度からの本格運行に向け持続性を考慮し、地域に適した交通体系を構築するとともに、交通空白地域の解消に向けた取組みに期待する。

## 5)事業実施効果

・門別地域において、路線バスから予約運行方式への移行したことにより、1ヵ月あたりの運行経費が約28～42万円減少

・予約運行方式への1ヵ月あたりの運行距離が門別地域で約3,000km、日高地域で約2,000km減少し、環境への負荷も軽減

・今後のバス運行については、ほとんどの方が経費の軽減が図れる予約運行方式を選択

・バスが運行していなかった地域へも運行範囲を拡大し、公共交通空白地域が減少

